

OITA NO KATARIBE

特報

この秋開催のおおいた終活フェア2019に 大分の語り部たちが大集合

2019年11月6日(水)、大分市ホルトホール・大ホールにて大分県で最大級の終活イベント『おおいた終活フェア2019』(主催:株式会社ファイン)が開催されます。同イベントのテーマは『生と死をつなぐ物語』。ステージでは、ソーシャルワーカーのミニプレゼンやグループ討議、フラダンスや日本舞踊などが披露される『大分シニアの大文化祭』

などが行われます。大文化祭では、県南落語組合の会長・矢野大和さんの口演会や、吉四六さんの語り部・広田美茶子さん、臼杵市の怪談話家・古谷美和さんも登壇。エントランス展示では、ねんど人形写真作家の渡邊さんの作品も展示される予定です。会場には終活お役立ちブースも多数あり。詳しくは右のQRコードよりチェックしてください。



おおいた包括ケアネット
ファイン

公式サイトは
こちらです→



動画で語り継ごう!大分の語り部の Youtubeチャンネル開設

このフリーペーパーやWEBサイト&SNSなど様々なメディアを組み合わせ大分のいにしへの知恵を世界に発信し後世に残すプロジェクト『大分の語り部』。語り部のみなさんの声や作品を動画でも視聴でき

るようにYoutubeチャンネルを開設しました。ねんど人形写真作家の渡邊さんの作品にカボスひろしがナレーションを務めた動画も公開予定です。右のQRコードからぜひご視聴ください。



大分の語り部チャンネル

吉四六の語り部、
広田美茶子さん
動画公開中→



大分の語り部 vol.02

発行日:2019年6月1日(土)
制作:Cabooosu(カボース)
編集長:カボスひろし(大分県産タレント)
WEB:https://www.oita.link/



編集後記

ありがたいことにWEBサイトから感想の声もいただきました。励みになります!次号は8月発行予定。暑い大分の夏を涼しくする臼杵市の怪談特集です!お楽しみに。(カボス)

¥0 TAKE FREE ご自由にお取りください

次号は2019年8月1日発行予定

特集
ねんど人形写真作家

子どもに夢を
ねんど人形写真で
ワクワクを



ねんど人形写真作家
渡邊和己

神話・民話をねんどで立体化し伝承地で撮影



吉四六さん、大友宗麟、地獄の鬼たちなど大分県にまつわるキャラクターをねんどで立体化し伝承地で撮影する『ねんど人形写真作家』の渡邊和己(わたなべかずみ)さん。どんな想いで作品を作り続け、これからどこに向かって行くのでしょうか。大分の語り部vol.2は渡邊さん徹底特集です!

ご自由にお取りください



ねんど人形写真作家 わたなべ かずみ 渡邊 和己

1961年、大分市鶴崎生まれ。1986年に入社した県内の印刷会社では広告写真を担当。2002年に独立し神奈川県へ。フリーカメラマンとして活躍しつつ、オリジナル作品「ねんど人形写真」を考案。関東圏、山陰、北海道などでの実績を重ね、2016年夏に大分県に帰郷。「子どもに夢を伝えられる仕事」を心がけている。

ねんどと写真の語り人

『ねんど人形写真作家』の渡邊さんは、地域に伝わる物語をねんどで立体化し、実際の伝承地を背景にした写真を撮影して紹介する活動をしています。現在は大分市の地域おこし協力隊として、佐賀関町で地域芸術振興に力を注いでいます。昨年は、佐賀関に伝わる神話『神々の海』と『鬼八伝説』の冊子を完成させました。『地域独自の文化は温故知新にあり』をテーマに、作品を作り続けていますが、活動の原点は特撮映画の円谷監督の言葉でした。

子どもに夢を伝えたい

幼い頃から漫画や特撮が大好きで、今まで買い集めた漫画は3,500冊。今でも自宅に保管されています。9歳の時に手にした『ぼくらマガジン』に掲載されていた円谷英二監督のメッセージ『子どもに夢を』に心動かされ「僕も

子どもに夢を伝えられる人になりたい！」と漫画家を志すようになりました。漫画のジャンルは好きなものを集めた怪獣・特撮・お笑い系。ノートに漫画を描いては友達に読ませていました。学生時代は美術が得意科目で絵には自信がありました。河童の話の漫画を出版社に持ち込んだこともありますが、物語を考えることが苦手で漫画家の道を断念することに。



プロカメラマンになり 庄内神楽と出会う

熊本商科大学に進学してからは、プロレス研究会を立ち上げ、リングネーム『ボンソワール渡邊』としてエレガントなファイトを展開。後輩には、後にFMWプロレスのエースとなる

ハヤブサ選手もいました。大学卒業後は大分に帰省し印刷会社に就職。カメラマンへ。カメラアングルの決め方や見せ方など漫画を描いていたことが写真撮影にも活かされました。神話・民話に触れるきっかけとなったのは庄内神楽のカレンダー撮影。スサノオノミコトとヤマタノオロチの演目はまるで特撮映画のようで、漫画・特撮好きの渡邊さんにとってより力のこもった撮影となり若手カメラマン時代の代表作となりました。



カメラ+ねんど=∞

42歳で独立し拠点を神奈川に移すと、活躍しているカメラマンは撮影の中で何か一つ特技を持っていることに気づきます。そこで、子どもの頃から大好きな漫画・特撮の世界をねんどで表現することに決めました。ねんどサークルに入り、ねんど人形作りを学び、最初のねんど写真は横浜港開港150周



大分のねんど人形写真ギャラリー



▲ 吉四六さん | 白杵市 吉四六ランド



▲ 赤鬼&青鬼 | 別府市 海地獄



▲ 大友宗麟 | 白杵市 白杵城址

年記念の作品展で出品したペリー提督。SNSにアップすると島根や鳥取の神話・民話イベントにも呼ばれるようになりました。

人生の転機 親友の死

充実した毎日を過ごしていましたが50歳を過ぎ転機が訪れます。大学のプロレス研究会の後輩であり、親友のハヤブサ選手が2016年3月に他界。自分の年齢と今後の人生を考え、ふるさと大分で『ねんど人形写真作家』として何かできることはないかと思い、大分市が募集していた地域おこし協力隊に応募。合格し2016年8月から現在まで大分市佐賀関で地域おこし協力隊の活動をしています。

ワクワクをねんどに こめて 子どもに夢を

「今後の目標は、大分と日本の昔話をテーマにしたねんど写真絵本を出版すること、そのために、もっとたくさん作品を作って行きたい」と語る渡邊さん。2019年の夏には地域おこし協力隊の任期は終わりますが、その後の活動拠点も大分県。大分の神話・民話、歴史にまつわる作品をこれからも発表予定とのこと。「自分が住んでいる場所が神話・民話の舞台となっていて今に繋がっていることがわかるとワクワクします。子どもたちが地

メイキング オブ ねんど人形



① ねんどに色をつけたらヘラを使いパーツ作成開始



② 最初に頭部を作ります顔が一番時間がかかります



③ 体・洋服も作って完成です

元を見る目が変わり楽しくなるように、ねんど写真作品を作り続けていきます」と語る渡邊さんは、9歳の時に刺激を受けた言葉『子どもに夢を』の通りに未来に向かっていきます。

聞き手・文：カボスひろし



取材を終えて… | 温かみを感じる丸こくて愛らしい人形たち。見ているだけで癒される人形を作っている渡邊さんご自身も、温かみと優しさに溢れた方でした。大分県外にいたことがあるからこそ改めて客観的な視点で

大分県の魅力を再発見し表現しているようでした。身近にあるからこそ気づきにくい地元の魅力。渡邊さんのようなユーモアとサービス精神を持って語り継いでいきたいです。(カボスひろし)